

北江間橋床版工事を振り返って

地区名 : 三島地区
会社名 : 中林建設株式会社
氏 名 : 現場代理人・監理技術者
堀江 喜明

■ 工事概要

工 事 名 : 平成30年度 伊豆中央道 北江間橋床版工事

工事場所 : 静岡県伊豆の国市北江間地内

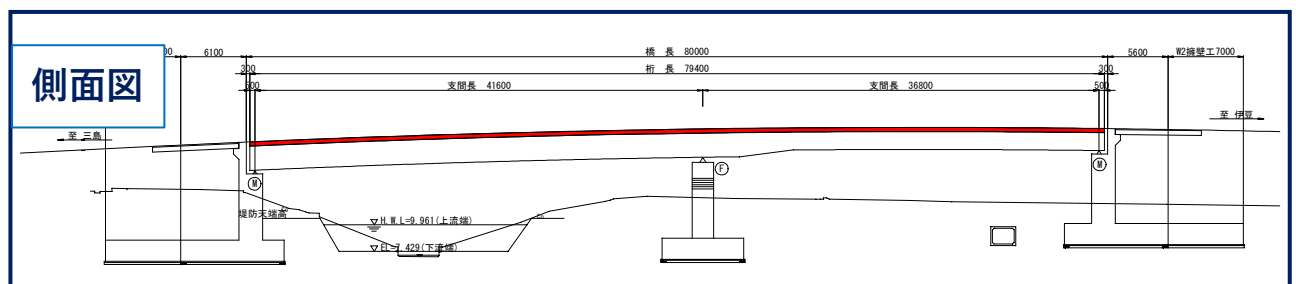
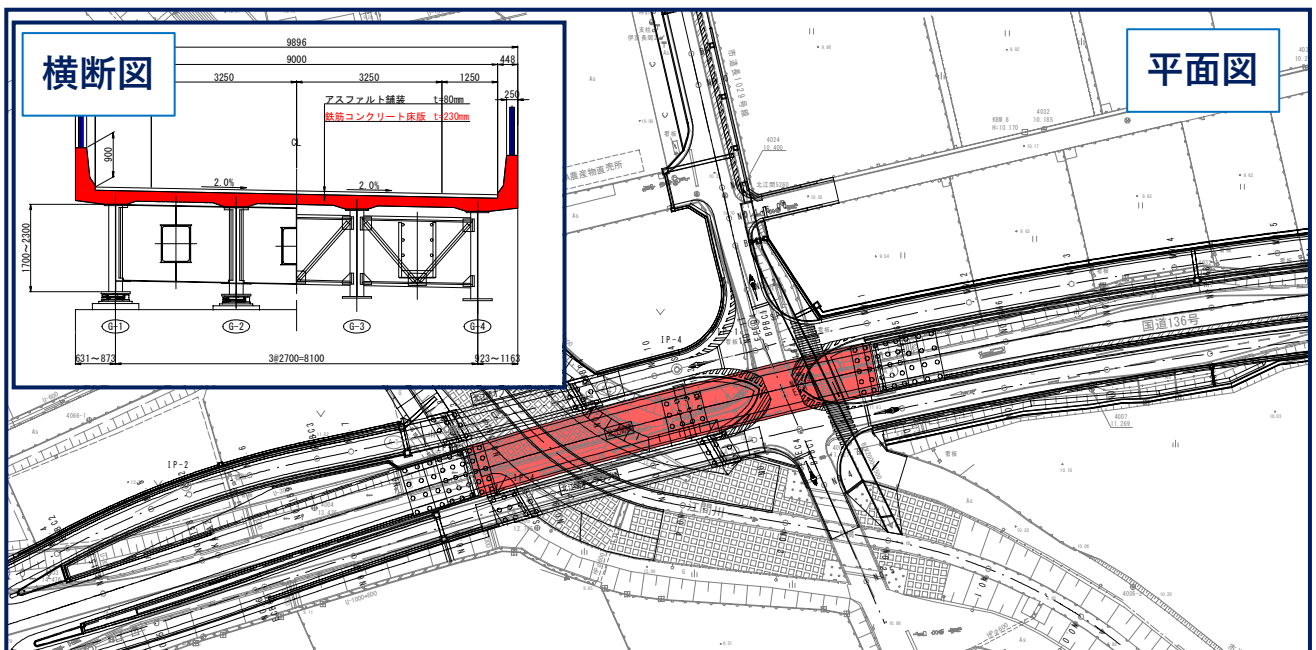
工 期 : 平成31年3月26日～令和2年3月19日

工事内容 : 床版工1式、橋梁付属物工1式
橋台躯体工1式、仮設工1式

現場位置図



伊豆中央道は東名・新東名から伊豆市までの約30kmの間で唯一残る平面交差点で、週末・観光シーズンを中心に激しい渋滞が発生している。このため、交差点立体化を行い、渋滞解消を目的とした工事である。



■ 現場における問題点

★ 施工ヤードの確保

・施工条件明示事項より、現場乗込み10月上旬、A2側背面を工事用進入口として予定していた。上部工工事より10月下旬に工事を引き渡されたが、予定していた進入口は工事の大幅な遅れで利用できるのが12月下旬からとなった。

A1橋台側かの施工は無理であったため、A2橋台下側からの施工を検討した。

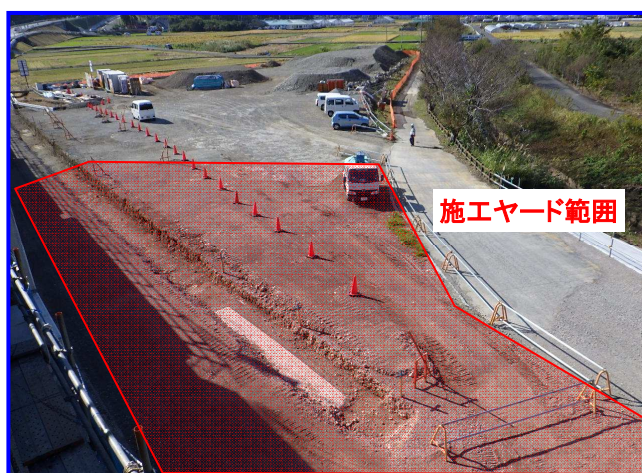
隣接業者の次工程で施工ヤードとして使用したい箇所は側溝工事することとなっていた。

発注者が静岡県道路公社と沼津土木事務所とに分かれていたため、側道施工業者と調整が必要であった。

対応策

・必要最低限のヤードを発注者に報告し、工事連絡協議会を通じて隣接業者と工程調整を行いながらヤードを確保し、施工することができた。

ヤード確保前の状況



■ 床版コンクリート打設前の清掃について

・型枠内の清掃はハイウォッシャーを使用しての水洗いを検討していたが、床版下に現道がある為、エアーコンプレッサーを使用して清掃を行った。しかし、思い通りに、型枠に付着した鉄筋の錆汚れ等が落ちない状態であった。このため雨天日を狙って水洗いを行うことにした。

コンクリートプラントの空き状況や工程に支障が出ないようにし、打設日を変更して型枠の水洗いを行った。結果としては、脱枠後のコンクリート表面は輝きを放ち、見映えの良いコンクリートとなった。コンクリートの出来映えを見て、水洗い清掃をした効果が感じられた。

型枠清掃状況



脱枠後の床版コンクリート



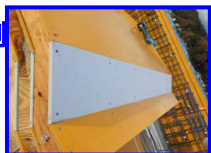
■ 壁高欄の型枠ハンチ部の工夫

・壁高欄の型枠ハンチ部は空気あばたが出やすく、脱枠後の補修作業の手間がかかってしまう。型枠ハンチ部に透水シートを使用することで、補修手間、日数の短縮になることはもちろんのこと、何よりも見映えが断然と良くなった。
使用した結果、経費が増え現場の負担となったが、透水シートの使用は効果的であったと言える。

透水シートの使用



型枠内側



■ 現場見学への全面的協力

・発注者主催(静岡県道路公社・沼津土木事務所)の現場見学会 出前講座に全面的に協力した。近隣の長岡北小学校の3年生を対象に出前講座の準備を行った。

- ①安全通路の整備
- ②仮設トイレの設営(2基)
- ③床版コンクリートに絵を描くための区画割、ポスカ(8色)の配布
- ④休憩所の設営
- ⑤開催後の後片付け

・当日は小雨が降っており、床版上が濡れていて開催が危ぶまれていました。天気は回復傾向でしたので発注者から予定通り開催するとの報告がありました。
コンクリートを乾かさなければならいたため、当社の社員および作業員で絵を描くキャンパス部を必死で乾燥させて、無事開催時間に間に合わす事ができました。
楽しんで床版上に絵を描く生徒達の姿を見て、ほっとした気持ちになりました。生徒達もこの機会に土木工事へ興味を持ってもらえると幸いです。

出前講座の様子



おわりに

本工事は、工期開始月が3月で現場着手が10月下旬からと実質4カ月でまとめなければならない工程の
厳しい工事でした。自分自身、床版工事は初めての経験でしたので、発注者や協力業者との打合せを
密にし、良い提案は受入れるようにし、現場で手戻りがないように心掛けて進めてきました。
結果、ロスなく現場が進み、工程的にも余裕を持って終わる事ができました。協力してくれた発注者や協
力業者の作業員の方達には感謝の思いしかありません。
本工事の経験を生かして、今後の現場管理に繋げていきたいと思っています。

完 成（起点側より撮影）



完 成（終点側より撮影）

